
静かな部屋の中で

桐月那薙

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

静かな部屋の中で

【Nコード】

N76400

【作者名】

桐月那薙

【あらすじ】

私はまだ走り出せずに、ここで一人。

腹の虫の音が騒ぎ立てたことで我に返る。

時計を見れば時刻は正午を過ぎていた。

今日も私は部屋の中で、一人でいつもと変わらない退屈な時間を過ごしていることに気がつく。

何をしていたわけでもなく時間が過ぎてしまい、目を覚ました時から今まで、どんなことをしていたのか自分の記憶には何も残っていないかった。

私は一体何をしていたのだろうか。私は一体何がしたいのだろうか。何気なく向けた視線の先に映る、鏡の中の自分の顔。

その虚ろな瞳の中の私をただ見つめていた。

遠く聞こえる街の雑踏。

行き交う車の音も、近くの店から聞こえてくる宣伝も、人たちのさまざまな話し声さえも、ただのノイズとして耳元を通り過ぎ、自分の中には入ってこなかった。

ただあるのは、静かな空っぽの、自分を表したかのような部屋の中。

言葉もなく、静かに膝を抱え座る自分。部屋の中が暗い海の底に沈んでいく気がした。

その部屋で唯一光を放つ、部屋の奥に転がった携帯電話が目に入った。そこに登録されているのは大切な人の名前だけ。

たった一人の大切な

だけど、その携帯電話に手を伸ばすことが今はまだ出来ない。

ふと思い出す、遠慮のない君の明るい声。

毎日かかってくる君の電話を、私はただ待ち続けている。

何気なく私の心に与えてくれるその言葉。

まだ君の想いに答えられずに、ただ楽しく笑うだけの私。

自分から電話を切るのが怖い。だから、充電は今日もほんの少しだけにして、すぐに会話が終わるようにしている。

もっと、欲しいとわがままになる心を押さえつけて。今はまだ、一人を望んで。

勇気の持てない私を甘えさせて……

暗がりの部屋の中、カーテンの隙間から差し込む日差しに、今日も外は晴れていることに気がついた。

まだ、雨が降らない。天気予報でもしばらくは晴れが続くことが伝えられた。

だから私は今日も君の隣を歩けない。傘をさして、一人で歩く君の側を。

そんなつまらない言い訳ばかりを考えながら、布団にもぐり眠りの中へ逃げ込んだ。

今日も君はいつものように誰かに向けて微笑んでいるのだろうか、いつものように今を一生懸命走り続けているのだろうか。

どこへ行くのか分からない明日へ向かって、ただ必死に。

そんな君の姿を見ていることが好きな私は、まだ走ることが出来ずここにいる。

遠くなっていく君の背中をただ眺めることもできずに。

静かな部屋の中で、一滴の涙を流しながら……

(後書き)

一人を実感してしまった時、無意識に投げかけられる優しい言葉はいろいろな意味で沁みる。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7640o/>

静かな部屋の中で

2010年11月7日10時59分発行